美術科

昨年度の授業改善プランの検証

＜知識・技術＞
　基本的な実技課題を繰り返し実施することで、色鉛筆を用いた技法を定着させることができた。（１年生）。「立体」作品練習の時間を多くとったものの、他の制作に活用できる技術の習得にはつながっていない。（２年生）。基礎的な、鉛筆や色鉛筆を用いた絵画技法は身に付いているが、絵具に関する技法や、知識は課題である。（３年生）。
＜思考・判断・表現＞
　身近なテーマを取り入れた短時間課題を実施したことで、よく知っている物の内部の構造などの細部や質感の違いなどの表し方に創意工夫が見られた（１年生）。立体表現では、身近に感じているモチーフを選んだことで愛着のもてる作品ができた（２年生）。抽象表現練習を繰り返してからの作品の主題は制作者の感情が感じられるものとなっていた（３年生）。
＜主体的に学習へ向かう姿勢＞
　短時間課題でスケッチをたくさん描きイメージを広げておくことで、作品制作時の創意工夫にも繋がっていると感じられた（１．２．３年生）。

生徒の様子、学力について

分析

＜知識・技術＞
　濃淡や混色の技法練習を重ね、活用しながら作品制作をしている（１年生）。
　２次元的や球体から３次元表現へ進めない生徒も多数いる（２年生）。
　デッサンにおいて陰等を表す濃淡の幅が狭く、立体感を出せない（３年生）。
＜思考・判断・表現＞
　自分の思いから主題を見出す表現に不慣れな生徒が多い（１～３年生）。
　技法に不慣れなことや、主題が見出せず制作を進められず制作時間が足りなくなる生徒が多い（１～３年生）。
＜主体的に取り組む態度＞
　鑑賞や練習課題には意欲的に取り組むが想像を広げるためのスケッチ活動が不活発（１～３年生）で主題の探求より手軽に完成する方法を探している生徒も多くみられる（３年生）。

課題

＜知識・技術＞
　雰囲気を表す特徴的な形や色彩を作る（１～３年生）。

＜思考・判断・表現＞
　自分の思いから主題を見出す方法を見つける（１～３年生）。
　他者の鑑賞との交流を通して自身の見方を深める（１～３年生）。

＜主体的に学習へ向かう姿勢＞
　表したい雰囲気を追求する姿勢を身に付ける（１～３年生）。

授業改善ポイント

＜知識・技術＞
　実技は短時間で取り組む課題と、長時間をかけて取り組む課題を組み合わせる（１～３年生）。平面・立体制作で必要なことを１年生から段階的に指導する。
＜思考・判断・表現＞
　鑑賞活動での意見交換を増やし、見方感じ方を深めさせる（１～３年生）。
＜主体的に学習へ向かう姿勢＞
　スケッチをたくさん描きイメージを広げる時間を多くつくる（１～３年生）。自分の課題、表現したいことに向き合わせるために、構想段階や、授業毎の振り返り記入に時間を取る（１～３年生）。